

序説

山口大学大学院医学系研究科 放射線医学講座 松永尚文

日常診療で遭遇する疾患やその原因は多彩であり、その診断に難渋することも少なくない。各専門領域では常識的・基本的なことも、領域が異なるとなかなか聞きづらく専門家に相談せずに診断レポートを書いてしまって悔やまれることがある。良質の診断レポートを書くためには、自分で調べることは元より、今さら聞けないことも躊躇せずに相談することが必要な場合もある。

疾患によっては、典型像や特徴的な画像所見を呈するとは限らず、非典型像を呈することも少なくない。特異的な形態、MRIの信号変化、造影パターン、良・悪性の鑑別、進展度の評価、似て非なるものの鑑別、画像所見と病態との対比や関連、ピットフォールや注意点、治療や経過観察において重要な所見や見逃してはならない所見、治療方針が変更となる画像所見のポイントなどは、知らないで診断に苦慮する反面、知っているで鑑別の一助となることがある。多くの画像情報と知識・経験から総合的に判断していく必要があるが、各領域において特異度の高い所見から適切な診断に結び付けていくことが重要と考えられる。また、疾患概念や分類の変遷、新取扱い規約の改訂点は常に新しい知識を取り入れる必要がある。

以上のような観点から、「今さら聞けない画像所見のワンポイント」と題して、知っておくと役立つ事項、病理所見や経時の変化から画像所見にフィードバックされて得られた情報を部位別に分けて把握できるような特集を企画した。

執筆をお願いした諸先生方は、日本医学放射線学会中国四国地方会で馴染みのある方ばかりである。ご多忙にもかかわらずご寄稿いただき、厚く感謝する次第である。画像所見はありふれた内容だけでなく、あまり知られていないものでも特異度の高い画像所見に焦点をあてて、最近の話題も絡めながら初心者が聞きたい基本的なところから最先端のことも網羅していただいた。「Pitfall」、「Tips & Tips」、「用語アラカルト」などの囲み記事や簡潔明瞭な「ポイント」も含めて、短時間で楽しく学習できるようになっており、量・質ともに企画者の期待以上の充実した特集になった。本特集が、日常の診療の一助となれば幸いである。